

## 国際婦人デー3・5東京集会に寄せられたメッセージ

### 大韓民国からのメッセージ

二〇二二年3・8国際婦人デーを迎えて

労働社会科学研究所 運営委員会

毎年、国際婦人デーを迎えて集会を組織する日本の同志のみなさん、こんにちは。

大山歩・小野利明・土松克典の三同志の大切な論稿（『情勢と労働』第一七七号に収録）をつうじて、二〇二一年十月三十一日に実施された衆議院総選挙の経過と結果、そしてその意味について少しは分かるようになりました。日本が戦争のできる国になるための改憲と軍備拡張の策動が強まっているという残念な状況も見ています。

このような困難のなかで、一一四年前“反戦と平和、女性解放”のために闘った諸先輩の精神を継承・発展させ、闘う労働者たちと連帯して、帝国主義に反対し、自主と解放のために闘う労働者・人民と連帯しながら、世界の闘う女性たちとの連帯の環を広げようとする同志のみなさんに尊敬と支持を送ります。

韓国の民主労総はコロナ・パンデミックによって二年間開催できなかった行事を、今年「二〇二二年3・8国際婦人デー精神継承・民主労総全国労働者大会」という名称で開催すべく企画しています。「差別と嫌悪を越え、ジェンダー平等の時代へ！」を主スローガンに、首都圏の加盟傘下団体の幹部と組合員たちを組織対象として、ジェンダー平等運動会(行進)をプレ大会に配置して、本大会は三月八日一五時から大学路で開催します。例年に比べて目に触れる要求としては、差別禁止法の制定と移住女性労働者に対する性差別・性暴力根絶、および安全な宿舎の提供、職場の移動の自由保障などが含まれています。

ところで現在、ウクライナで繰り広げられている帝国主義戦争を見ても、サード基地反対闘争に粘り強く取り組んでいる韶成里のハルモニ（おばあさん）たちを見ても、反戦と平和の要求がこの労働者大会の要求に見られない点が惜しいです。

いっぽう、韓国では三月九日が第二〇代大統領選挙日であるため、大衆の関心がすべて大統領選挙に注がれています。ご存知のように、韓国では一九八七年の民主抗争と労働者大闘争で軍事独裁が幕を閉じた後、隷属ブルジョワジーの二つの巨大な分派が権力を分けもっていますが、現在の大統領選挙の形勢は多少自由主義的な民主党(与党)の李在明候補と軍部独裁勢力の嫡子で第一野党の極右「国民の力」の尹錫悦候補が伯仲の争いを続けています。

悪名高い軍事独裁者朴正熙の娘朴槿恵政権を没落させた二〇一六 - 一七年の「キャンドル抗争」、その巨大な人民抗争によって誕生した文在寅政権の反労働・反人民政策が、第一野党ではあるが国会議席の三分の一をかるうじて獲得するくらい無力になった政治勢力をふたたび華麗に復活させ、その候補の当選がもっとも有力な状況にまできてしまったのです。

二〇一六 - 一七年の当時、抗争に対する巨大マスメディアと警察などの類例のない傍助的・傍観的態度をみて、その抗争が、もしかすると天地の分別ができない朴槿恵-崔スンシルの横暴に怒った財閥たちによってひそかに企画され、労働者たちは動員されただけの、小ブルジョワ民主主義者たちがその主導権を行使した必然的帰結ではないのかと反省してみたりもします。

当然、欺瞞的な空約束に終わる公約ではあるけれど、大統領選候補たちの女性関連公約を見てみるならば、民主党の李在明候補は「雇用平等・賃金告示制」、国民の力の尹錫悦候補は「性別勤労公示制」などでほとんど差がないものの、尹錫悦が「女性家族部の廃止」を論じて衆目をあつめたりもしました。正義党の沈相候補はみずから「フェミニスト大統領」と宣言して、女性の比率が四〇%を超過する「ジェンダー平等内閣」を作ると言っ

ています。進歩党の金在妍候補は「ジェンダー平等賃金公示制」を主張し、「性別賃金格差計算機」を開発してキャンペーンを行なうと言います。「社会主義」を掲げた李ベギョン労働党候補は「差別と暴力のない連帯社会」という大きな枠組みで女性・マイノリティー・障害者・移住労働者などとの連帯を掲げています。しかし、階級的分裂と対立こそ女性解放の最大の障害物であるため、労働者階級の解放という根本問題を解決しないまま叫ぶ「ジェンダー平等」はスローガン倒れに終わるほかありません。

このような状況で、大統領選挙を労働者・人民大衆に対する宣伝・扇動の場と見なすわたしたち労働社会科学研究所は、ブルジョワジーの支配がもたらすあらゆる惨状と弊害を具体的・包括的に暴露しながら、そうした惨状・弊害をもたらし、もたらさざるを得ないブルジョワジーの支配を打倒・克服するために、現在の主・客観的条件からただちになすべき、そして窮極的になし遂げなければならないしごとを宣伝・扇動することを主張しています。とくに労働党の「社会主義」候補の反ソ・反北主義と朝鮮半島の非核化という公約は、帝国主義の主張と異なることを指摘しつつ憂慮しています。また、どの「進歩的」候補も国家保安法の撤廃を強く打ち出さない点がはなはだ不満です。

解放のための思想と科学なしに労働者階級の解放は可能ではなく、女性解放もまた労働者階級の解放なくしては可能ではないと確信するわたしたち研究所は、労働者階級の解放のための思想と科学を研究・学習し宣伝して、労働者・人民大衆の闘争と切り結ぶことによってさらに邁進するでしょう。

国際婦人デーをむかえ、韓・日労働者・人民の連帯の先頭にたつ日本のさまざまな同志のみなさんに無限の尊敬と連帯のあいさつを送ります。

万国の労働者よ 団結せよ！

二〇二二年三月五日

【訳＝土松克典】

(『思想運動』1075号 2022年4月1日号)